

淡路の魅力

国生みの神話、日本遺産に

淡路島は、洲本市、南あわじ市、淡路市の3市で構成され、北は明石海峡大橋で神戸市に、南は大鳴門橋で徳島県とつながっています。

日本最古の歴史書である「古事記」の冒頭、伊弉諾・伊弉冉が日本列島を誕生させていく物語「国生み神話」の中で最初に生まれた島として記されているのが淡路島です。大陸や朝鮮半島から新しい文化や技術が伝わっていく道であ

った瀬戸内海の東端に位置し、大和朝廷とをつなぐ中継点としての役割を果たしたであろう淡路島の歴史的役割がうかがい知れます。そのことを裏付けるかのように、2015年4月、弥生時代の青銅器・銅鐸が南あわじ市の



南あわじ市で発見された松帆銅鐸は、弥生時代から淡路島が要所であった事をうかがわせる
(写真提供:南あわじ市教育委員会)

松帆地区で見つかりました。保存状態が極めて良いことから歴史的な発見として話題を呼び、その埋納状態から、弥生時代の新たな祀りに海の民が携わったことを想像させます。「『古事記』の冒頭を飾る『国生みの島・淡路』～古代国家を支えた海人の営み～」が2016年、文化庁によって「日本遺産」に認定されました。

また、2018年5月には、洲本市五色町出身の豪商・高田屋嘉兵衛に関係が深い北前船の寄港地となった洲本市等の文化財群が日本遺産「荒波を越えた男たちの



夢が紡いだ異空間「北前船寄港地・船主集落」に追加認定を受けました。

豊かな食文化、淡路島ブランドで発信

万葉集にも詠まれる、海人がつくった塩は、朝廷の儀式に使われるほど重宝されたと平安時代の法令集「延喜式」には記録されています。塩のほかにも海人が生産する多くの海の幸が皇室・朝廷に献上され、「御食国」としての役割を果たしたと推定されています。

年間を通して温暖な気候に恵まれ、日照時間の長い淡路島は農業の島としても知られ、淡路島たまねぎやレタス、キャベツを中心とする野菜をはじめ、米やビワ・ミカンなどの果物、カーネーションなどの花など多彩な農産物を生産しています。兵庫県のたまねぎ生産量は北海道・佐賀県に次いで全国第3位で、そのうち95パーセント以上が南あわじ市を中心とする淡路島産です。淡路島たまねぎは、全国で生産されるたまねぎの中でもやわらかくてみずみずしいうえに雑味がなく糖度が高いことで知られています。

海産物にも恵まれる淡路島。ハモは京都の祇園祭、大阪の天神祭で旬の料理として使われているほか、岩屋港で水揚げされる生しらすも全国に知られ始めています。畜産業も盛んで、淡路島生まれ、肥育され、品種評価基準により選定された牛を「淡路ビーフ」として認定することによりブランド化が進められています。また牛乳の生産も関西一です。



たまねぎやハモなど淡路を代表する食材は数多い。最近ではしらすにも注目が集まっている

こうした農水畜産物を加工、流通・販売へつなげていく6次産業化の取り組みも盛んで、例えば、淡路島たまねぎを原材料に使ったオニオンソテーやスープ、カレーなどさまざまなたまねぎ加工品が商品化され、土産物として喜ばれています。特に、「淡路ビーフ」と「淡路島たまねぎ」を組み合わせた「淡路島バーガー」はご当地バーガーとして人気を呼んでいます。また、淡路島には伝統的な地場産業も根付いています。19世紀半ばに端を発し、淡路市一宮地区で製造され続けている線香の生産量は全国第1



いぶし銀の色合いが映える淡路瓦は、屋根材だけではなく、オブジェなど様々な用途にも用いられている

を果たし、現在では屋根材だけでなく、モニュメントやオブジェなど多様な用途に展開されています。

位です。お香も生産しているほか、現代的な香りも積極的に採り入れ、香りの文化を広げ続けています。

淡路瓦は、質の良い粘土に恵まれ、大阪、奈良、京都に運ぶための港があったことから発展し、現在も南あわじ市の津井・松帆・阿万地区を中心に生産されています。いぶし銀がもたらす独特の色合いが和を演出する役割

あわじ環境未来島構想で、新たなまちづくりのモデルを提示

淡路島では、豊かな自然の恵みと地域コミュニティーの結びつきを生かし、日本が抱える人口減少や高齢化の課題解決の先導モデルとなることを目指して「あわじ環境未来島構想」を県・市・住民・地域団体・企業などが協働して推進しています。2011年には、国から地域活性化総合特区の指定を受けました。具体的には、再生可能エネルギーの活用、電気自動車の普及、農業人材の育成、地域資源を生かした集落の活性化などで、2050年



エネルギー自給100%に向け、メガソーラーや風力発電施設の建設が進みつつある

までにエネルギー（電力）自給率100%、生産額ベースの食料自給率は300%以上などを目標数値として掲げ、生活の質を重視した新たなまちづくりのモデルを築いていこうとしています。

1998年4月に明石海峡大橋が開通して以降、淡路島はより身近な島になりました。季節ごとに花が楽しめる「あわじ花さじき」、世界最大級の「鳴門の渦潮」、数多くの温泉など観光資源にも恵まれる淡路島。2014年4月1日からは明石海峡大橋（垂水IC～淡路IC間）の通行料金が900円に大幅値下げされ、観光客数の増加につながっています。



明石海峡大橋は世界一長い吊り橋とされ、物流や人の往来に劇的な利便性をもたらした



西浦の景勝地である慶野松原。播磨灘に沈む夕陽は息を飲むほど美しい



季節ごとに花を楽しめるあわじ花さじき。春には菜の花が一斉に咲き乱れ一面が黄色に覆われる